



## 本日の内容

- ライフデザイナー-これからの人生を考える
- 市民力とは？
- 市民力と協働 - うらやす市民大学の理念
- 地域デビュー、生きがい、幸せとは？
- 自分自身と地域の文化度を上げる。
- 文化とは何か？
- 市民運動、市民活動から市民科学へ
- なぜ、市民活動センターではなく、市民大学なのか？
- 新しい仲間、新しい楽しみ、新しい自分との出会い
- 理想の自己

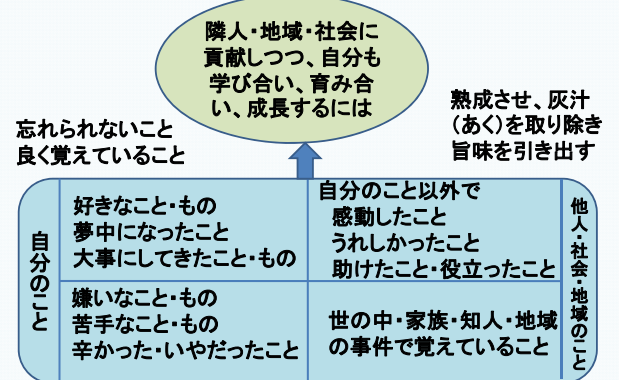
## 人生の目標

- どう思いながら、何に価値をおいて、人生を過ごしたいのか。
- 何が人生の目標になり得るのか。
- 何が人生の喜びなのか。
- 地球と人類にどのようにかかわりたいのか。

2017/4/21

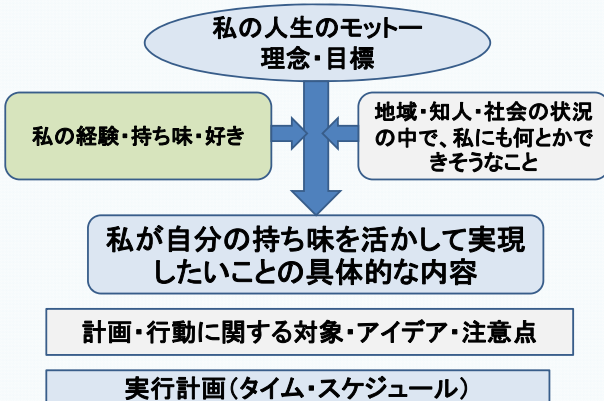
3

自分の過去を生かして、折り返し点を過ぎた人生をより良く生きる



苦勞した人生を過ごしてきた人ほど、それを活かして人に役立つ豊かな後半生を送れる

## 私のプロジェクト名



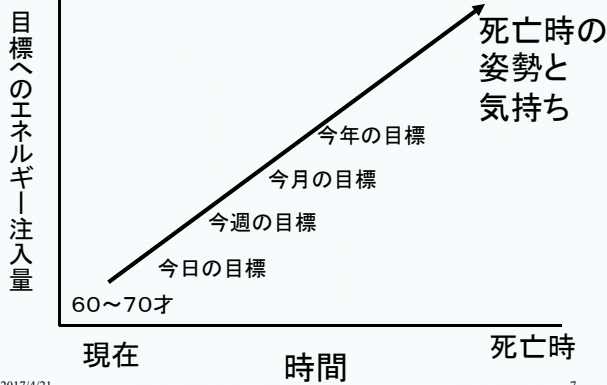
## 私の人生行動指針

- 多重目的計画 - 何か1つは達成する。
- 多重目的行動 - 途中を楽しむ。
- 赤子の目で物を見る - 恥かきを楽しむ。
- 組み合わせの妙を活かす。
- よい指導者、良い仲間を得る。
- いのちをいつくしみ、空気・水・光の流れを気持ちよく感じる。

2017/4/21

6

## 人生の多重目的と最終目標



2017/4/21

7

## 会社・子育てからの離陸

今まで以上に自然体で、生き方、考え方の枠組みを変える

- 思い込み、従来の行動規範からの自己解放を楽しむ
- フラットな社会に生きることを楽しむ
- ボランティアとして利他行為を楽しむ
- 生涯学習の楽しみを知る
- 次世代への貢献、投資に喜びを感じる
- 知人、家族、隣人、市民、国民、人類との理念の享有と絆を深める
- 自然との絆を深める
- 多様性・個性と全体の調和を楽しむ。

2017/4/21

8

## 戦後67年間の日本社会の「力」の変化

国家的公共性 企業の公器性 市民的公共性

行政力

官僚主導  
工業立国  
国土開発

企業力

高度成長  
消費の時代  
物の時代  
環境汚染  
メセナ

市民力

成熟社会  
ボランティア  
NPO、NGO  
心の豊かさ  
女性の活躍

お上への依存  
組織化、均一化  
規格化、没個性

会社人間

モノの豊かさから心の豊かさ(幸せ感)へ

## キクの花が同じ色で同じ姿なのは自然？不自然？



## キクの花の色と形が色々なのは自然？不自然？



## 植物が語りかける多様性



キク(菊)の品種改良畑  
一株の母親が結実させた多量の種子から育てられた大量の植物体に開花した多様なキクの花

花屋さんで見かけるキクの花は、種子からではなく、挿し木で増やされたクローン植物体から得られている花なので、均一である。

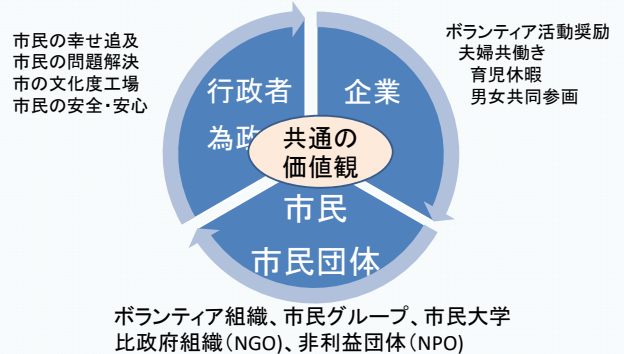


## 市民力とは？

- 地域にある課題を、他の人や行政に任せずに、自主的・自発的に、関係者と協働しつつ、解決する市民の力
- 地域社会に自己の存在意義を重ね合わせ、自己と地域住民の“幸せ”の享有をめざす考え方と行動の仕方から生まれる、生活革新をとまなう生きる力

(上野征洋、根本敏行、2006を改編)

行政者・為政者、企業、市民の枠組みを超えた、「幸せ」の三方一両得の共通価値を協働して追及する



## うらやす市民大学

- 「うらやす市民大学」は、多様性を尊重し個性を活かしながら、市民一人一人が何ができるかを考え、何かできることをひとつ実行してみるための、市民のための大学、市民による大学、市民が創る大学です。
- 自身の生きがいを再発見し、地域社会全体の質の向上を通じて、地球全体の持続可能な福祉社会の実現をも視野に入れることに多少とも興味がある市民の皆様のご参加をお待ちしています。

## 地域活動

- 地縁型コミュニティー  
自治会、町内会  
——>流域型コミュニティー
- テーマ型コミュニティー  
環境、園芸、福祉、国際交流  
——>ネットワーク型コミュニティー

## 「幸せ」とは？

- 人間の「生」の充足感
- 仲間および自然との絆(きづな)の実感
- 相対的、物質的な豊かさではなく、主体的な価値観としての自律的な精神性
- 利他に利自を重ねる喜び。学び、役立つことの喜び。次世代への配慮。おかげさまで、生かされている
- 地域と自己の文化度を高める喜び

好きなことを活かし、学びを楽しみ、異見を受け入れる

- 調査 (図書館、インターネット等)
- 文書記録・議事録作成
- 資料整理・記録整理
- 文章表現・文書作成
- 写真撮影・ビデオ撮影
- イラスト描き
- ホームページ作成
- 音楽、スポーツ、身体運動
- 会計
- 電話連絡、メール連絡
- 笑顔、あいさつ
- 人間とのコミュニケーション
- 植物、動物とのコミュニケーション
- 異文化コミュニケーション
- いざこざ仲裁
- 掃除、片付け、準備
- アンケート作成
- 協働企画
- 想像、アイデア作成

## 文化(culture)と文明(civilization)

- 文化(culture)は芸術と学術(研究・教育・普及)
- 文化は農業・農村から  
→ 地域(ローカル)性、多様性
- 文明(civilization)は都市から  
→ 普遍性、脱地域性、グローバル化

文明の過拡大から文化の復権へ

英語cultureは、「文化」だけでなく、「農」にかかわる多様な漢字で表現されている

Culture (文化)を含む複合語の例

Agriculture (農業)  
Horticulture (園芸)  
Hydroculture (水耕)  
Arboriculture (育樹)  
Floriculture (草花栽培)  
Silviculture (造林)

Aquaculture (養殖)  
Apiculture (養蜂)  
Culture (耕作/培養)



## 共闘による市民運動・市民活動から協働による市民科学へ

- 文化は芸術と学術(科学)から構成されているのであるから、芸術を楽しむように科学を楽しむ市民がいることは自然であり、また、市民科学の発展は文化レベルを上げることになる。
- たとえ複雑で理解しがたいことであっても、正確な事実の多面的記録が、科学の重要な第一段階である。
- Ddf



医者には医学があるように、患者には患者学が必要だ

## 専門家科学と市民科学

職業専門家科学 (客体化科学) 外からの眼差し	市民科学 (当事者科学) 内からの眼差し
都市計画学、地域計画学	都市住人学、まちづくり市民学
教育学	学習学
看護学・医学	患者学
看護師・医師による養生学	市民・病人による養生学
福祉学・介護学・自立支援学	障がい者学・自立学・内的発展学
老年学、高齢者学	向老学・老人学
農園芸生産学	市民農園芸学
人事管理論、組織論	NGO/NPO運営論

## 市民科学とは？

- 市民科学(当事者科学)は、当事者である市民の主体的な要求(ニーズ)と活動に基づき構築される。
- 当事者とは、解決すべき問題を持つ人であり、その問題に対するサービスの利用者である。
- 当事者には、市民、高齢者、女性、障がい者、不登校者、子供、患者、外国人などが含まれる。
- 当事者の周囲には、その家族、知人、ボランティア、職業専門家、行政者、政治家などの、関係者が存在する。



## 科学とは？

科学とは、普遍的真理や法則の発見を目的とし、一定の方法に基づいて得られた体系的知識またはその一部を言う。過去と現在の体系的知識を、人類の共有文化遺産として未来に紡ぐために、公開と複写が可能な文書（文章、図表、写真など）に残す行為。

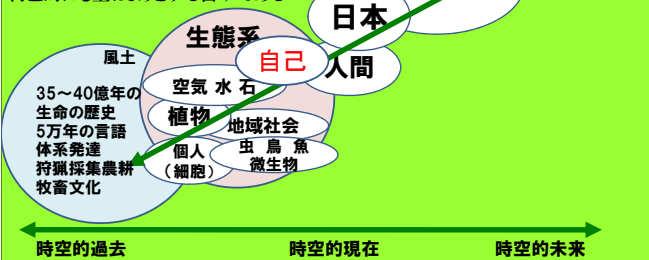
市民科学は、市民主体による活動・運動・協働から得られた体系的知識と経験知を、当該分野の過去の知識体系の中で位置づけ、現在および未来世代の共有財産としたもの、あるいは、その行為。

## 市民科学への挑戦の利点

- ・問題意識とその解決に向けた活動の記録や成果が、インターネット上に公開され、後世にも残り、また、他人からの反応を得やすい。
- ・他人からの反応（指摘、意見、賛同）は、視野の拡大やより良い成果への足掛かりになる。
- ・同様な問題を抱えている人とのネットワークができる。
- ・問題意識や解決へのアイデアと成果が他の人に役立つことがある。生きがいが増えられる。
- ・問題の背景、解決法、成果の効用と限界が明確になる。
- ・市役所、地元企業の活動が活性化される。市税が節約される。

## 自身を育み、隣人・地域・地球を育み、次世代を育もう

「育み」とは、「個人・個体の有限のいのち（生命）」を、「時間的・空間的に広がる家族、隣人、地域社会、生態系、地球、宇宙のいのち」に紡ぐことにより、「個人・個体のいのち」を「持続的未來のいのち」に繋ぎ、他方では、「持続的未來のいのち」を「個人・個体のいのち」に利他的にも利己的にも重ねようとする営みである



## 私の理想の自己



2017/4/21 高岡由紀子 画

4月下旬の晴れた夕方、空腹で、また疲れきった男が、田舎の道の傍らに膝をついて、頭を地面につけて、うずくまっています。男は、その路傍に生えている、うす紫色の小さな花をつけた野草を、親鳥がヒナを育むように大事そうにお腹で抱えています。

男は、とおりに見つけたこの花にいたく心を引かれて、この花の命が今夜の晩霜（ばんそう）で受粉前に絶えることのないように、次の朝、気温が上がり始めるまで、自分の体温で温め続けるつもりです。気温が上がれば、この花に飛んできた虫が、蜜を集めるかたわら、受粉の手助けをしてくれるからです。そうすれば、その種子がやがて地面に落ち、翌年も花を咲かせることができます。男は、自分の命が絶えるとも、この花を咲かせる植物の命が来年以降もつづくことを心から願っています。周囲は畑で、遠くには山が青くかすんで見えます。周囲に人はいません。静かな夕暮れです。

## 参考文献

- ・古在豊樹. 2008. 「幸せの種は」きっとみつかる. 祥伝社. 257ページ
- ・古在豊樹. 2011. 育み・養生・看護 — 自然主義・市民科学・統合科学の視点から —. 文化看護学会誌 3(1): 45-49.
- ・古在豊樹. 2012. 当事者科学と市民科学 — これからの看護と統合科学の関係 —. 日本老年学会誌. 11月発行予定